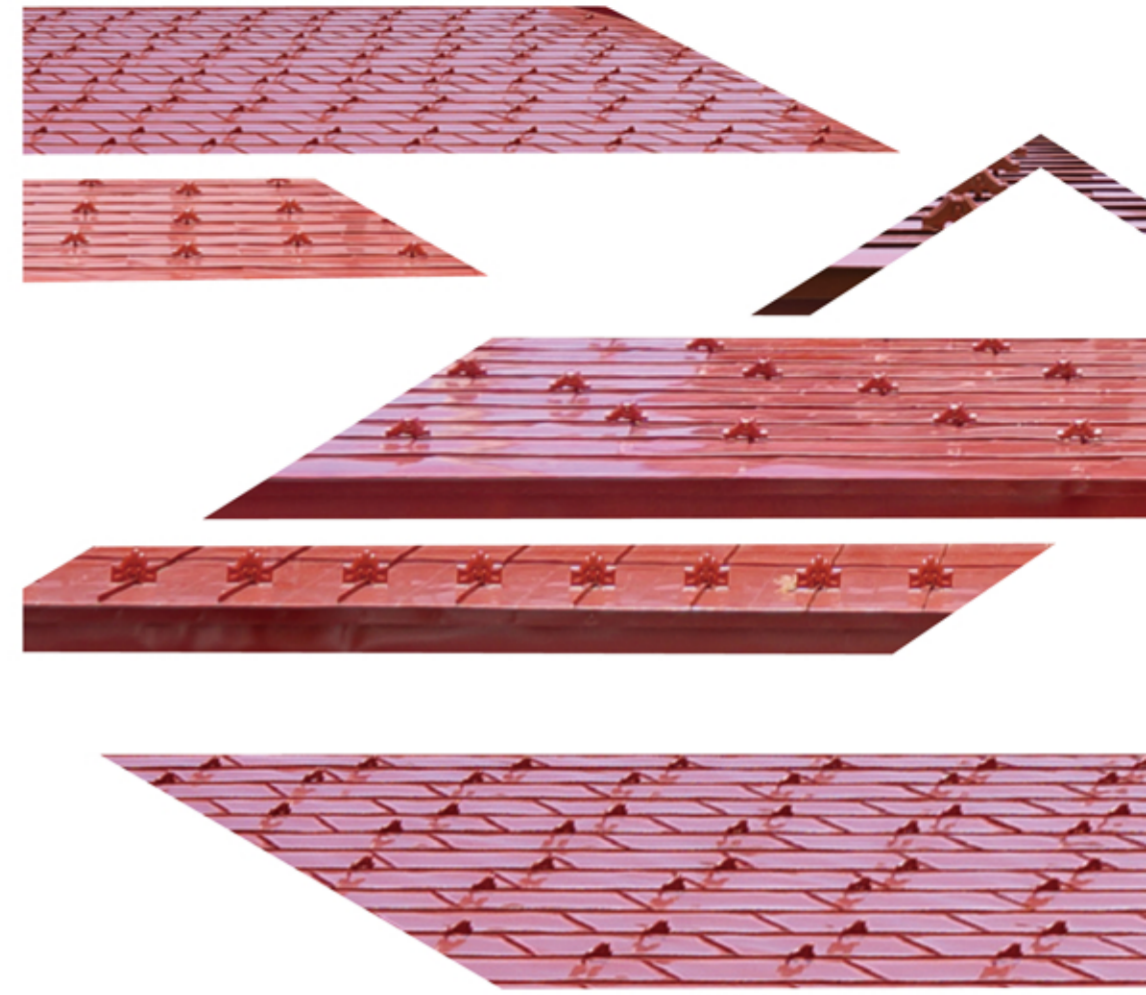


松の湯レター vol.11



まち歩きの見点としての 「活用」と「次世代への継承」を担う 松の湯交流館

特集 / こどもガイドツアー〔黒石市 幸成児童館〕

まちなかShop情報 ／ 気にナル／

郷土料理店「旬夏秋冬」

心落ち着く優しい空間。こみせ通りにほど近い黒石市の中心街に青森の郷土料理「旬夏秋冬」がオープンしました。店内は、和の雰囲気や包まれカウンター越しのまあるい窓がやすらぎを与えてくれます。着物姿が似合う女将さんの松井七皇子さんとお母さんの作る郷土料理はまさに故郷の味。ランチは旬な食材で作る日替わり(1,000円税込)がお薦めで、毎日お魚かお肉をメインに彩りや健康を考えたヘルシーで栄養たっぷりの料理です(ごはんとお汁おかわり自由)。また、この季節にかかせない鍋焼きうどん(800円税込)はお餅が入っています(ランチには全てコーヒー付き)。お弁当やお惣菜(おかずのみ)のテイクアウトも可能です(要予約)。夜は晩酌セット、十和田バラ焼き、十三湖のじみ汁などで楽しめます。



旬の味が賢賢に楽しめる日替わりランチ。



美人女将の松井七皇子さんとお客様から頂いたお気に入りの高亮の神様「仙台四郎」が出迎えます。

【旬夏秋冬】
営業時間 / 11:00~21:00 (ランチタイム11:00~17:00、ラストオーダー 20:30)
TEL / 080-6001-8273 定休日 / 年中無休
住所 / 青森県黒石市乙徳兵衛町3-1

くろいしのあずまいし景観写真大募集!

黒石市の魅力を県内外に発信するために、『四季折々の風景』や『日常生活の中で素敵だと感じる場所』など、黒石を愛してやまない皆さまが撮影した写真を募集します。

募集写真テーマ

- ・四季折々の彩りの風景(お祭りや農の営み、自然など)
- ・黒石の魅力をアピールできる場所や風景
- ・日常でのお気に入りの場所や風景
- ・次世代に伝え、守っていききたい黒石の場所や風景

【応募先・お問い合わせ】
黒石市建設部都市建築課都市建築係(黒石市庁舎2階)
〒036-0396 黒石市大字市ノ町11-1
TEL. 0172-52-2111(内線229) FAX. 0172-52-6191(代表)
E-mail toshikeikaku@city.kuroishi.aomori.jp
受付時間 午前8時15分~午後5時00分

詳しくはこちらをご覧ください
http://www.city.kuroishi.aomori.jp/Citizen_Info/Cit_Keikan_azumasii.html



応募締切日
平成29年
3月31日(金)

松の湯レター Vol.11

2016年松の湯交流館は1周年を迎え、様々なイベントでたくさんの方が来館しました。ペットとの触れ合いやこどもガイドで地域の方々との温かい交流、東京から真打の落語家を招いての落語会など賑わいのある一年だったと思います。2017年も新たな企画でまちを盛り上げていきます。お楽しみに!! (H)

発行日: 2016年12月25日
発行: 黒石市
企画・制作: NPO法人横町十文字まちそだて会

1月からのイベント情報

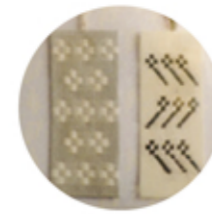
松の湯交流館企画・協力

※イベント内容は変更になる場合があります。

こぎん刺し体験

1/21(土) 10:00~12:00 講師: 工藤康子さん
参加料: 300円 定員: 15名

おかげさまで好評をいただいているこぎん刺し体験。今回は可愛らしい「しおり」を作ります。こぎん刺し初心者の方におすすめの体験講座となっておりますので、是非奮ってご参加ください。



津軽塗体験

1/29(日) 10:30~12:00 講師: 工藤広一さん
参加料: ブローチ800円、スプーン700円 定員: 24名

前回大変好評だった津軽塗の小物づくり体験を開催いたします。ブローチかスプーンをお好みで選んでいただき制作体験できるイベントです。やすりで磨くだけでとってもおしゃれな小物ができるので、初心者の方にもおすすめです。お気軽にご参加ください。
※予約段階で、ブローチ・スプーンどちらを制作したいかお選びいただけます。



子どもの楽しい英語学習

3月初旬 対象: 2歳半~5歳
参加料: 無料 定員: 10名程度

お子様向けの英語学習を開催いたします。歌ったり踊ったり、遊びながら英語を学べる体験学習となっておりますので、お子様と一緒に参加してみませんか? また、当日市民サロンをキッズスペースとして開放いたします。いつもよりも広々利用でき、楽しい道具を増量してお待ちしておりますので、是非ご来館ください。



☆申し込み受付は実施日の14日前からです。
参加申込・お問い合わせは松の湯交流館まで

第1回 松の湯交流館雪合戦大会(予定)

スポーツ雪合戦大会を開催いたします。ただの雪合戦ではなく、ルールがあり、審判もいるれっきとしたスポーツ雪合戦です。
詳細は後日、市報・市HP等でお知らせいたします。
※参加状況・悪天候により中止になる場合もありますのでご了承ください。



松の湯 交流館

●開館時間 / 9:30~18:00 ●休館日 / 夏期無休(4~11月)、冬期毎週月曜日(12~3月、ただし月曜が祝日・振替休日の場合はその翌日)、年末年始
tel.0172-55-6782 fax.0172-55-6783
●十文字カフェ営業時間 / 11:00~16:00 ●十文字カフェ定休日 / 毎週月曜日
〒036-0377 青森県黒石市大字中町33

松の木便り



松の湯交流館では、自主企画のほかにグループ・団体の活動や発表などで、常時さまざまな催しを開催しています。今まで催されたワクワクなイベントを、松の湯レターでご紹介します。

パソコン教室



講師に長谷川直宏さんをお招きし、初心者の方に向けたパソコン教室を行いました。丁寧な解説を聞きながらパソコンの基本の操作を学びました。実際にパソコンに触れ、時には参加された方同士で教え合いながら楽しく講座を受けていました。仕組から教えていただき、ためになったという声もあり、大好評の講座となりました。
●開催日: 9/25 ●主催: 松の湯交流館

外国人観光客へのおもてなし講座



ホテルグランメーロ山海荘&姉妹館「水軍の宿」若女将の杉澤知恵さんをお招きし、外国人観光客への適切な対応の仕方を学ぶおもてなし講座が実施されました。たくさんの方々が受講し、講演後は杉澤さんとお食事会も開かれました。
●開催日: 10/15 ●主催: NPO法人横町十文字まちそだて会

コーヒー教室



弘前コーヒースクールの成田専蔵さんを主宰としてお招きし、コーヒー教室を実施しました。コーヒーを飲みながら豆知識と淹れ方を学んだ後、参加者が実際にコーヒーを淹れ、飲み比べを楽しみました。さっそく学んだ知識を活かしたという参加者もいて、分かりやすく楽しい講座でした。
●開催日: 10/16 ●主催: 松の湯交流館

黒石養護学校喫茶サービス実習



黒石養護学校の生徒が実際に接客を行い飲み物を提供する、喫茶サービス実習が行われました。自ら声を掛けて元気挨拶する姿や、慎重に飲み物を運ぶ生徒にお客さんはとても感動していました。10月、11月と2回行われたカフェサービスは、両日とも大盛況でした。
●開催日: 10/17・11/28 ●主催: 青森県立黒石養護学校

松の湯交流館は使いいろいろ!

会議や集会・イベントなど利用方法はさまざま。詳しくはお電話、または交流館スタッフまでお気軽にお尋ねください。

スイーツデコ制作体験



スイーツデコ制作ワークショップなどで活動されている平川静さんを講師に、小さなパーツを組み合わせて小瓶の入れの制作を行いました。たくさんパーツから好きな色やものを選び、飾りの生クリームは実際にお菓子づくりで使う絞り袋に柔らかいシリコン樹脂を入れて絞り出し制作しました。
●開催日: 10/22 ●主催: 松の湯交流館

羊毛フェルト体験



八戸市で創作羊毛雑貨を制作している中川想品店の中川由美子さんを講師に、羊毛フェルト体験を実施しました。中川さんのアドバイスを聞き、羊毛を針で刺して繊維を絡めながら形を作っていく、個性溢れる可愛いミニサンタを制作しました。最後は手作りのミニサンタと一緒に撮影会を行いました。
●開催日: 11/6 ●主催: 松の湯交流館

フラワーアレンジメントワークショップ



黒石市元町でディスプレイやフラワーギフトを取り扱う「フラワーデザインFlowers」の大溝千秋さんを講師にお招きし、フラワーアレンジメントワークショップを実施しました。参加者は大溝さんの指導のもと、お花の美しさをどうやって最大限に生かせるかを深く考えながらお花を挿していく、素敵な作品に仕上げました。
●開催日: 12/3 ●主催: 松の湯交流館

こみせ通りイルミネーション



松の湯交流館・中町こみせ通りに綺麗なイルミネーションが灯りました。風情あるまちなみを温かく照らす光が美しく彩り、今までにない新たな冬のこみせを観ることができました。松の湯交流館の松の木にも光が灯り、通りを華やかに演出しています。
●開催日: 12/21~2/5 ●主催: 松の湯交流館

実施期間
2月5日(マッコ市)まで

松の湯コラム ⑥

MATSUMOYU COLUMN



毎回さまざまな方々の寄稿をご紹介します松の湯コラム。第6回は今年、松の湯交流館や市内の施設を有効に活用して市民文化祭を主催するなど多方面で活躍している黒石文化協会会長 神敏雄さんです。

「殿様の松」

神敏雄

私は黒石生まれの黒石育ち、でも私が生まれ育った頃(昭和二十九年三月)までは中郷村でした。昭和二十九年四月からは町村合併で黒石市が誕生し、中郷村という名称は過去のものとなりました。しかし人々の生活圏が変わったわけではありません。私が少年の頃と全く同じなのです。夏には追子の木の川(浅瀬石川)へ何人かで水浴びに行き、冬は上坂(神明宮の急な坂)へ櫛(そり)あそびに行きました。私の生家は下浜町の裏側でしたので浜町・中町・前町を通り上坂(かみさか)や追子の木の川へ行きました。ですから必ず「こみせ通り」を通ったのです。

今でこそ「こみせ通り」と呼ばれていますが当時は、中町はもちろん、前町にも、山形町にも、横町、上町、元町にも断続的ではありましたが「こみせ」はありました。「こみせ」は中町を見れば分かるように、造り酒屋大商店など間口を大きく取り威力を見せつけたものでは思われます。勿論アーケードの役割は果たしながらの事ですが、中町には「松の湯」がありました。大きな松がありました。少年の頃は、其処に松があるのは当たり前のごとくでした。でも強く意識はしていませんでしたが何と言いますか、「殿様の松」のような存在感が私にはありました。それは何故かといいますと、幹の周りが「こみせ」や建て物に囲われているように見えるからなのでしょう。松は大きく枝を張り、その下には理髪店や一時期ではありましたが駄菓子屋もあつたようでした。

私はあの殿様のような松を見るとはじめて黒石だ!! 故郷だと心が和みます。殿様の松よいつまでも。

施設紹介 ⑥

外観、松の木

こみせ通りから見える屋根から突き出た松の木は、樹齢約350年。弘前から青森へ向かう浜街道であつたおかげを感じさせます。今ではこみせ通りのシンボルとして市民から愛されています。

建物は藩政期の建築で、旅籠(はたご)だった時代もあつたといわれています。その後銭湯として多くの人に愛され賑わいました。その名残が男湯と女湯と書かれた戸口です。

交流館となった今でも湯道具を持って入ってくる人もいますか?! 当時の外観をそのまま残して再生された松の湯は、そこに住んでいた人々の思いがひしひしと伝わってくる歴史ある建物です。



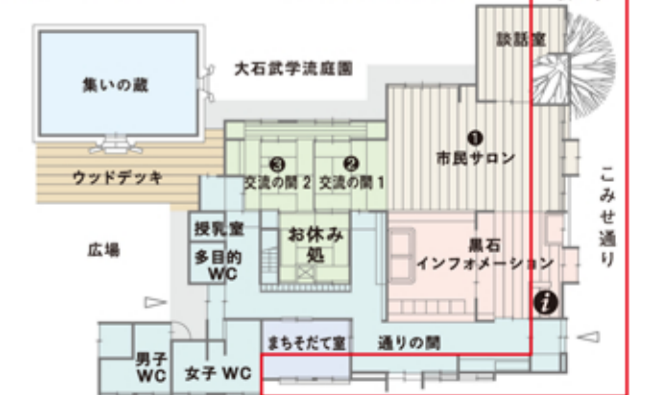
二つ並んだ元銭湯の引き戸には、赤で書かれた「男・女」の文字がそのまま残されています。



西谷家側の入口も銭湯を営んでいた当時のままに復元されています。



今回のご紹介はコチラ!



ご利用料金

	営利を目的としない使用		営利を目的とする使用	
	1時間	1日	1時間	1日
① 市民サロン	320円	2,590円	640円	5,180円
② 交流の間1	100円	860円	210円	1,720円
③ 交流の間2	100円	860円	210円	1,720円

*1. 使用時間が1時間に満たない端数があるときは、1時間とします。
*2. 貸し館は22:00までです。

まち歩きの拠点としての 「活用」と「次世代への継承」を目指して

11月8日、黒石市の幸成児童館の子どもたちによる、「あずましの里 黒石幸成こどもガイド2016」が開催されました。まち歩きの拠点としての「活用」と「次世代への継承」を担う松の湯交流館でこどもガイド認定式を行い、あいにくの雨の中たくさんのまち歩き参加者が子どもたちのガイドに耳を傾けていました。



1 初めてのまち歩き体験で興味深々!



2 感じたことや体験したことを話し合うワークショップ。



3 真剣な表情でリハーサルをする子どもたち。



4 いよいよ本番、緊張しながらも一生懸命!

【子どもガイドデビューを目指して】

夏、小学1年生から小学6年生の児童によるこどもガイドを育成するためのスケジュールを組み、秋のガイドデビューに向けてガイド研修、ワークショップなどを行いました。

*

幸成児童館の一戸由奈館長は「黒石を知ること、黒石を誇りを思うこと、『交わることで知る』をコンセプトとしている松の湯交流館を活用し『誰もが松の湯を『自分の場所』にするために地域の施設を活用した事業の展開を考えた時に子どものガイドツアーが浮かびました」と話す。

*

日本NPOセンターが主催する子どものための児童館とNPOの共同事業「どんどこNPOプロジェクト」を活用した今回の取り組みは、同センターも初の試みで子どもたちがどのようにガイドを進めていくのか注目されました。

*

子どもたちが自分の住む町の良さや歴史を知り、地域のために貢献できる人材を育成し、地域で活躍する大人の姿を見たりふれあったりすることで、次世代を担うことへの希望や目標を持つことを目的に着々と準備が進められていきました。

*

「大人では気づかない子どもならではの目線で参加者にガイドしていたのが印象的でした。普段はおとなしい子どもも堂々と大きな声でガイドをしている姿を見ると、無限の可能性を感じる」と館長。

*

子どもたちによるまち歩きガイドは、黒石市の歴史を次世代へ受け継ぐ貴重な取り組みとして市やこみせ通り商店街の人たちも関心を示しました。ツアー当日は、ガイドとしてお店に待機していた子どもたちに店主の方々が自分の孫のように接して、一生懸命ガイドする姿を温かく見守っていました。はなんてんとマイク姿の子どもたちは、練習の成果を存分に発揮して、いきいきと輝いていました。

*

館長は「地域と児童館が繋がりを持って、まちで子どもを育てる関係づくりができればまちの活性化にも繋がると思います。今後こどもガイドを継続して次世代に『誇れる故郷』として受け継いでいければと思っています」と笑顔で話していました。



5 ツアーを終えて参加者と記念撮影。



6 ツアー後、各班ごとに新聞を作成。



8 松の湯交流館にて新聞展示。



7 11月5日の児童館まつりでツアーの報告会。

黒石市小さなまちかど博物館 レポート

黒石市「小さなまちかど博物館」の紹介レポート。今回は、横町にあるノブル「アンティークおしゃれ館」と山形町の十川酒店「時代屋博物館」です。



手作り小物や婦人服などを販売、人々の交流の場所として集い合う。



十和田市から招いての大家勝子講師による手芸教室は好評で、近隣市町村からも参加している。写真はH29年の干支、酉（雄と雌）の飾りを制作中。



蔵の「蔵楽（くらら）」で踊る蔵ダンスならぬフラダンス教室!

アンティークおしゃれ館

昭和のレトロな街並みにある「ノブル」。手芸が大好きな野戸谷早希子館長の実母、岩谷信子さんが自分の名前からつけたお店です。昭和32年にオープンし現在、次女の野戸谷さんが受け継ぎ、手作り小物や婦人服の販売、講師を招いた手芸教室などを開いています。創業は明治時代で「岩谷商店」というお米の問屋、販売（～平成21年）から始まり、ラムネ、アイス製造販売（～昭和57年）も行っていました。「まず、お店に入ってお客様が楽しんでもらえるように、ウエルカムの意味で水槽のカメ（ウエルカム）でお迎えします（笑）。そして店内は、当時の金庫や先代が長年使っていた黒塗りの筆筒（たす）、櫛などを陳列棚にしていますのでアン

ティークな雰囲気を味わってもらえたらうれしいですね。」と笑顔が素敵な館長。常におもてなしの心で観光にきたお客様を楽しませています。また、歴史ある貴重な品々がたくさん納められている店裏の蔵「蔵楽（くらら）」では、月2回、講師を招いてフラダンス教室を開いています。館長の奇抜な発想とユーモアあふれる話術でお客様を楽しませている、そんな素敵なお店でした。

アンティークおしゃれ館

【達人】館長・野戸谷早希子 | ノブル |
開館時間 / 10:00～18:00 閉館日 / 原則日曜日
黒石市横町17 TEL / 0172-52-3345



明治時代は前町から山形町まで広い敷地で造り酒屋を営む。

時代屋博物館

昔から「とがさかや」と呼ばれて親しまれてきた十川酒店は、地元では有名な造り酒屋さんとして栄えていました。貴族院議員に当選した政治家の宇野要三郎氏の夫婦が先代です。十川酒店を創業した宇野家は黒石市上十川の大地主で、店名は町名からつけられたものです。現在4代目の（故）宇野寛さんの奥さんである明子さんが受け継ぎ一人で営んでいます。「嫁いだ当時は慣れない土地での生活が大変だったけど、寛さんがとても優しくしたのでやってこれた」と懐かしそうに話す宇野館長。昭和46年に製造は終了し、今は販売業の傍らで宇野家にあつた骨董品を展示しています。また、店の奥にある住宅の一部屋を利用して明治初期の雛人形が飾られており、観光客にとっても喜ばれています。宇野館長は「今もお店をやっているのは、元気で自由があることかな。そして何よりも亡き寛さんに対する愛情ですね。黒石にはもつとたくさん人がきてほしい。黒石にきたお客様をおもてなしするためにここで出来ることをやっています。観光にきた方が骨董や雛人形を見て感動していただけるのが何よりもうれしい。」と笑顔で話してくれました。



季節を通して展示している雛人形は観光客に大人気。



ショーウィンドウには時代を思わせる骨董品が並んでいる。

時代屋博物館

【歴史的資料】館長・宇野明子 | 十川酒店 |
開館時間 / 8:00～17:00 閉館日 / 不定休
黒石市前町40 TEL / 0172-52-3702